

革新的燃焼技術 自己点検結果

#	審査の視点（平均点） 外部専門家のコメント	対応状況	理由
1	<u>研究開発の内容の重要性、妥当性（1.8点）</u> ①（優れている点）：メーカー間や大学間の垣根を越えた、これまでにない産学連携体制を構築は非常に重要。 （改善すべき点）：熱効率の目標値はすでに公知の値。より野心的な値に設定すべき。 ②（優れている点）：自動車産業のみならず、他産業への波及効果も期待でき、非常に重要な取組み。 （改善すべき点）：異分野の技術を取込む際のすり合わせや、産学間のスピード感の違いなど、業務を遂行する段階において生じる課題を克服するための工夫も必要。 ③（優れている点）実用化・事業化に直結する技術開発を狙った非常に重要な取組。極めて高い戦略性を有する。 （改善すべき点）燃焼関連技術は制御技術・損失低減技術と不可分。研究チームの一体的連携や研究主体が複数の研究チームに参画可能な体制、柔軟な組織・運営について要検討。	①ご指摘を受け反映 ②対応無 ③-1検討継続中 ③-2ご指摘を受け反映	①熱効率の目標値は公にされた値と同等のものであるが、達成時期は大幅に前倒しを図るものであり、十分に野心的な目標と考える。以上を表すものとして『1. 背景・目標等』に「世界のトレンドに先駆けて」を追記。 ② ③-1企業間の協調領域の設定や、運営体制等について検討を継続する。 ③-2『2.研究の内容』に「研究対象は、乗用車用の内燃機関とし、」を追記
2	<u>実用化・事業化への戦略性（1点）</u> ①（優れている点）自動車産業、ひいては燃焼技術に係る産業を発展させるために重要な取組み。 （改善すべき点）産産、産学、学学の連携構築には大学から産業につながるビジネスの成立が鍵。その重要性を明確にすべき。 ②（優れている点）自動車産業のみならず、他産業への波及効果も期待でき、非常に重要な取組み。 （改善すべき点）異分野技術を取込む際の擦合わせ、産学間のスピード感の違い等、業務遂行段階での課題克服に必要。 ③（優れている点）実用化・事業化に直結する技術開発を狙った非常に重要な取組み。極めて高い戦略性を有する。 （改善すべき点）燃焼関連技術は制御技術・損失低減技術と不可分。研究チームの一体的連携や研究主体が複数の研究チームに参画可能な体制、柔軟な組織・運営を要検討。	①対応無 ②検討継続中 ③検討継続中	①「6.(1)持続性を持った産学官共同研究体制の整備」に記載済のため。 ②具体的な方策については、公募提案を待ってからとなるが、運営体制の検討等を事前に準備を進めたい。 ③研究を効率的に推進するための体制・仕組みについてはまさに検討中であり、継続して検討を進めたい。
3	<u>組織間連携（産産、産学、府省）の有効性（1点）</u> ①（優れている点）“共用研究所”や“リーダー大学”など、国内の研究開発のリソースを統合する考え方は重要。 （改善すべき点）「実用化・事業化への戦略性」に記載したとおり、大学から産業につながるビジネスの重要性を強調すべき。 ②（優れている点）自動車産業の裾野を拡げることによる国際競争力の向上に期待。 （改善すべき点）業務を遂行する段階において予想される課題に対する対応・工夫の検討が必要。 ③（優れている点）学生の企業活動参加で、実用に直結する工学を学べ、成果が結実する達成感等、人材育成に期待。 （改善すべき点）燃焼に係る技術は制御技術・損失低減技術と不可分。研究チームの連携、研究主体が複数の研究チームに参加可能な体制を要検討。	①対応無 ②検討継続中 ③検討継続中	①「6.(1)持続性を持った産学官共同研究体制の整備」に記載済のため。 ②具体的な方策については、公募提案を待ってからとなるが、運営体制の検討等を事前に準備を進めたい。 ③研究を効率的に推進するための体制・仕組みについてはまさに検討中であり、継続して検討を進めたい。
4	<u>その他特記事項</u> ①-1熱効率の向上に向けて、燃料技術の向上もアプローチに含む旨を明示すべきである。 ①-2本プロジェクトの推進にあたっては、部品メーカーも体制に取り込むべきである。	①-1対応無 ①-2検討継続中	①-1「2.研究の内容」に記載済。 ①-2部品メーカーも是非参画していただきたいと考えている。体制の在り方について引き続き検討を継続する。

※点数は以下を基準にしています。
 0点：改善が必要なもの
 1点：妥当であるもの
 2点：優れているもの